

## 業務分析報告

# 一般外科病棟における褥瘡発生予防の取組み ～DiNQLデータ(褥瘡関連)を活用した目標管理～

盛岡赤十字病院 看護部

及川千香子・下屋敷義郎・曾我 朱美

## 【はじめに】

N病院では「看護の質」評価について何らかの指標が必要と考え、2014年DiNQL事業に参加した。3部署から始めて2016年からは全病棟8部署で取り組んでいる。川本ら<sup>1)</sup>は、DiNQLのベンチマーク評価は具体的な目標値の設定に有効であると述べている。今回、一般外科病棟の褥瘡予防について、DiNQLのベンチマーク評価を活用した目標管理を行ったので報告する。

## 【研究方法】

1. N病院で7対1入院基本料を算定している6病棟について、2015年度の褥瘡ハイリスク患者割合と褥瘡発生率を比較する。さらに一般外科病棟(以下A病棟とする)で2015年度に褥瘡が発生した患者の要因を明らかにする。
2. 1の結果を踏まえて、A病棟のリンクナースと褥瘡管理者が中心となり、褥瘡発生率を低減させるための計画立案と実践を行う。
3. A病棟の2015年度と2016年度の褥瘡に関するDiNQLデータを比較し取り組みの評価を行う。

## 【倫理的配慮】

N病院看護部倫理委員会の承認を得て実施した。

## 【結果】

1. 2015年度の病棟別褥瘡ハイリスク患者割合と褥瘡発生率

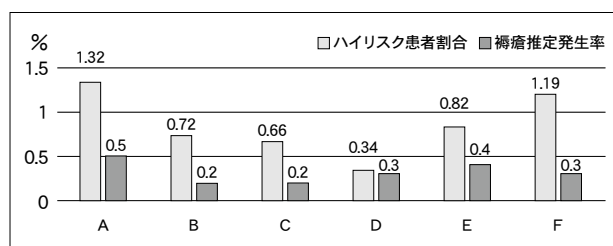


図1 病棟別ハイリスク患者割合と褥瘡発生率(2015年度)

- N病院における2015年度の病棟別褥瘡ハイリスク患者割合と褥瘡発生率を図1に示す。A病棟の褥瘡ハイリスク割合は1.32%、褥瘡発生率は0.5%であり、院内で最も高かった。
- 2015年度A病棟における褥瘡の発生要因
 

2015年度にA病棟で褥瘡が発生したのは8名であり、いずれもハイリスク患者であった。手術に関連した要因は、長時間手術や術前からの低タンパク血症、深部静脈血栓症(DVT)予防のためのフットポンプや弾性ストッキングの装着、緊急的手術であった。手術以外の要因としてはがん終末期の疼痛・全身衰弱や肺炎のための体動困難であった。
- 褥瘡発生率を低減するための計画と実践
 

2015年度に褥瘡が発生した患者要因をふまえて以下の取組みを行った。

  - ①患者状況に応じたマットレス選定基準の作成：3時間以上の手術を長時間手術とし、体圧分散機能の高いマットレスを選定、交換した。

- ②除圧ケア・ポジショニング・スキンケア等に関する学習会の実施と、除圧するための用具（ポジショニンググローブ、ウレタンクッションなど）整備
- ③褥瘡発生ハイリスク患者の把握とハイリスク患者にPDCAサイクルを回した。

4. 2015年度・2016年度のDiNQLデータの比較

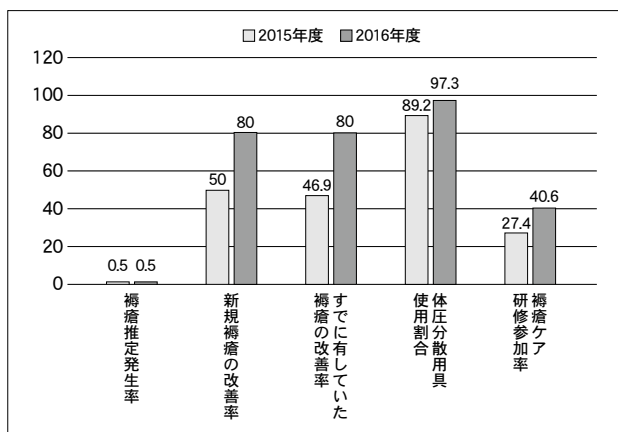


図2 A病棟における褥瘡関連データの年度比較

A病棟における2015年度と2016年度のDiNQLデータを比較すると、新規褥瘡発生率は0.5%で変化がなかったものの、「新規褥瘡の改善率」「すでに有していた褥瘡の改善率」「体圧分散用具使用割合」「褥瘡ケア研修参加率」は上昇している。

【考 察】

一般外科病棟において、DiNQLデータを活用した褥瘡発生予防に関する目標管理を行った。川本ら<sup>2)</sup>は、「病棟での詳細な状況はDiNQLデータには表現されない、データの裏にある現実への理解が何よりも重要である」と述べている。今回はDiNQLデータのみではなく、褥瘡が発生した患者要因も検討しながら褥瘡発生率低減のための計画立案を行った。特に「長時間手術」の時間数をチームで基準見直しをしたことにより、マットレス選定基準は看護補助者にも周知でき、地道な交換作業に繋がり効果を得た。このような部署に合った対策がとられ、2016年度は前年度に比べ褥瘡の改善率・体圧分散用

具使用割合・褥瘡ケア研修参加率が上昇したと考える。また病棟スタッフにDiNQLデータを示すことで、リンクナースをはじめ一人一人が自分が行うべきことを自覚できる。DiNQLデータの活用は目標管理に有効であると言える。また、2015年度に褥瘡が発生した患者には栄養管理に問題があるケースもみられた。今後の課題は、DiNQLデータを看護職のみでなく医師を含めNSTチーム等多職種で活用し、多角的、予防的関わりを行うことである。

【結 論】

1. 一般外科病棟において2015年度のDiNQLデータと褥瘡が発生した患者要因を組み合わせる改善策を立案し実践したことにより、2016年度、褥瘡の改善率・体圧分散用具使用割合・褥瘡ケア研修参加率が上昇した。
2. DiNQLデータを活用することで、スタッフの意識と行動を変えることが可能となり、目標管理に有効である。

(本論文の要旨は平成29年10月7日 第10回岩手看護学会学術集会で発表した)

文 献

- 1) 川本利恵子・岩澤由子 看護の質向上を図るデータマネジメント 病院75(1)p46 2016
- 2) 前掲書1) p48